

実施報告書【地域連携実践重点校用】

学校番号	29
学校名	富山県立高岡南高等学校

重点課題	地域社会・産業界・地元大学と連携し、情報発信力や課題解決能力を身につけるとともに、グローバルな人材を育成する
課題設定の趣旨	本校では探究教育とキャリア教育を融合した「SOUTH探究プロジェクト」にて、スクールポリシー「Study: 高みを目指して学ぶOriginality: 新たに創造するUniversality: 真理を探究するTeam: 他と協働するHonesty: 誠実に取り組む」を実現するために、地域や大学と連携した進路設計や探究活動を行い、情報発信力や課題解決能力を育成することを目指している。 具体的には本校では、「主体的に人生を切り拓く力を育成」するために「越境」「共創」を掲げている。地域等の連携をする中で、課題発見・課題解決活動を通じて、その力の育成を図り、グローバルな人材を輩出することを目指す。 そのための方策として、次の3点を課題として持っている 1 明確な志をもって学び続け、自ら行動して、社会の発展に貢献できる人材の育成 2 地域と連携した「総合的な探究の時間」「理数探究」での探究活動の推進 3 プロジェクトの持続化および教員の指導力の向上
中長期ビジョンを実現するための今後の重点事項	SOUTH探究プロジェクト推進するための研究 ・自走への取り組み・・・学校だけが一方的に地域より支援を受けるのではなく、地域と学校がWIN-WINの関係となるための取り組み。地域・企業課題に取り組み連携を強化。 ・組織化・・・PTAIにSOUTH探究プロジェクト推進委員会を設置しコーディネーターが中心となって地域との連携を行う。学校がHUBとなり他と連携するコンソーシアム構想により地域連携をスムーズに実施できる体制作りとした。 ・生徒が自らの資質能力を発見し、自己決定の元で社会に出ていくことができウェルビーイング教育の推進。
実施内容 (具体的に記入する)	○1学年 探究リテラシーの習得・越境と共創による人材育成(主に総合的な探究の時間にて実施) ・イノベータープログラム・・・アントレプレナーシップ講座・グローバル講座を実施し、挑戦心や世界観を醸成するとともに自らの在り方生き方を考えさせる。講師:シリコンバレー在住B-Bridge International, Inc. CEO 樹本博之氏他。マインドセットを行いデザイン思考を学んだ。(～7月までに10時間実施) ・地域探究(探究的な活動Ⅰ)・・・8/27(火)に地域の企業訪問を実施(29社)し、デザイン思考に基づき課題発見・課題解決方法について地域企業をテーマにして学び、インターンシップ等も実施する。地元の魅力ある企業に気付かせ、地域に根ざした人材の育成を狙う。その後、高岡市と連携し、身近な地域を課題にして探究をすることで、問いの立て方とロジカルシンキングについて学んだ。将来の社会とのかかわり方の視野を広げた。課題を解決しビジョンを実現させるためのアイデアを具体化し、最終的に地域課題解決の提言を発表した。PBL型学習である。具体的には県立高校連携活動コーディネーター指導の元、高岡市との連携講演会(9/17)、2/4地域探究連携講座:(中間報告会)(地域企業・商工会・PTA・県・大学などの学習支援員が7グループ・各グループ3名計21名)課題解決の糸口を見出すためのフィードバックを行った。(実施計画②③)探究を持続的にやり自走するための教員研修を実施(実施計画①:別事業による助成)(外部講師による)生徒は3/18(火)に成果をポスターセッションにて地域探究発表会にて発表した。県内外の高校、中学、保護者に公開し、企業訪問協力社を来賓にする。(実施計画④)地域探究の活動は適宜WEB公開する。テーマについては連携先と協議し、WIN-WINの関係を構築する。 ○2学年 探究力の向上(主に総合的な探究の時間・理数探究にて実施) ・大学連携講座Ⅱ(探究的な活動Ⅱ)・・・富山大学と連携し、将来進む可能性のある学問分野に関係した研究活動等を体験する。生徒の進路希望をふまえ、富山大学の8系統の講師に研究分野をもとに、1系統約20名前後で希望進路に従って、指導や方向性のアドバイスをもらいながら活動させる。各系統内では、それぞれ4～6名のグループで活動する。 文系コース(普通科人文科学コース・文系)A. 文学・言語系 B. 国際系 C. 経済系 D. 地域探究系 理系コース(普通科理系)E. 数学系 F. 物理系 G. 化学系 H. 生物系(グループにより、地域と連携したり、STEAM型探究を実施したりすることを計画している) ・5月28日(火)(場所:富山大学)(実施計画⑤)2学年生徒が、五福キャンパスを訪問し、探究全体講座の後、生徒が系統毎に研究室を訪問し、自分たちの探究的な活動について、テーマ・仮説・検証方法案などを説明し、富山大学の先生にアドバイスをいただいた。(アカデミック・インターンシップに位置づけている。) 8月27日(火)報告会1:富山大学教授等に協力を得て、各系統・グループごとに、生徒の探究的な活動Ⅱについての助言をいただいた。11月5日(火)報告会2(場所:高岡南高校)教授等に來校頂き、各系統・グループごとに、生徒の探究的な活動についての助言をいただく。中間発表にて研究を説明し、テーマ・仮説・検証方法案などが適切であるか、また発表の技法について富山大学の先生にアドバイスをいただいた。中間発表を兼ねていて、優秀な3班については2/1富山探究フォーラムにて発表した。 ・2月4日(火)(実施計画⑥)最終報告会(場所:高岡南高校) 系統毎に探究的な活動のまとめの発表を行った。発表はプレゼンテーションの形で実施。富山大学の先生方に、担当される系統の発表に対して講評をいただいた。理数探究については実験・実習指導も実施。全体発表会までの間に、探究内容を深めるために、地域企業を訪問したり、大学講師・企業等より講師を招聘し助言を得たりした。(実施計画⑧)期間6月～3月の間で3回程度実施:謝金辞退も含む。富山大学・PLJなど) ・3月18日(火)(実施計画⑦)全体発表会(場所:高岡南高校)生徒は3/18(火)に成果を体育館でポスターセッションにて発表。県内外の高校、中学、保護者に公開し、企業訪問協力社を来賓に、富山大学講師による講評を予定。活動は適宜WEB公開する。 ・人文科学コース(実施計画⑨⑩)授業「文化と情報」を中心にコミュニケーション能力や人文科学の専門性が高い人材を育成する。発見学習や発展学習を多く取り入れることにより、情報発信力、実践力や積極性を育てる。自身の研究テーマを設定し、日本語や英語で表現した。Zoomを使って英語でプレゼンテーションし専門的な視点からのアドバイスを受ける。講師はシンガポール教育省語学センターの方を予定。(謝金辞退)シンガポールの高校生と交流し、プレゼンテーション力を向上させた。その際に本校卒業生がサポートする。世界の中から地域を捉え、俯瞰しながら地域課題を捉える機会とした。(1学期・3学期と時期を分けて実施) ○3学年 データサイエンス講座(主に総合的な探究の時間・理数探究にて実施)(実施計画⑪)これからの社会において、データから目的に整合した情報を読み解く技術、数理的思考力とデータを適切に活用し課題解決に導く能力が求められている。探究力を完成させるため富山大学との連携講座で計11時間(一部文理別)実施し、6月に発表会を行った。

取組の成果 (プロジェクト学習推進 の観点から)		「SOUTH探究プロジェクト」を通じて、探究力・自己発信力が育成された生徒の割合 アンケートより91.5%、高校魅力化評価システム(三菱みらい育成財団)より、主体性に関わる学習活動、探究性に関わる学習活動が全国比で優れているとの結果を得た。 1 明確な志をもって学び続け、自ら行動して、社会の発展に貢献できる人材の育成 ・アントレプレナーシップ教育型・地域探究による提案型・大学連携による研究型の3つの型を体験させることができ探究力を育成した。 ・将来学び続けるためのツールとしての探究の手法について体得させる。(探究テーマを深掘りさせる取り組みを実施した。) ・産学官民との連携による特色・魅力ある教育活動の実施。PTAがHUBとなり「越境」「共創」が進んだ。 2 地域と連携した「総合的な探究の時間」「理数探究」での探究活動の推進 ・生徒が地域等の課題を「自分ごと」と捉え、他者と協働的に関わりながら課題解決に向けて行動できる実践力を育成する。(地域探究連携講座により強化に成功した) ・企業や地域と連携し、様々な立場から地域課題を捉え、その解決に向けて教科知識を役立てる取組 (地域との連携により実施) 一部生徒は全国区での活躍を見せている ・地域に公開する成果発表会の開催やWebページによる取組の公開 (3/18に実施した) 3 プロジェクトの持続化および教員の指導力を向上 ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善により確かな学力を育成できた。 ・専門家の指導・助言を受けた授業研究会の開催(学年で研修を実施) ・地域と連携した探究の組織化により探究活動の持続化をはかる(組織化・自走化に成功した。)
対象者(学年・人数など)		1学年160名、2学年161名、3学年158名
実施実績	4月	⑪3学年: データサイエンス講座 4月～6月に実施。6月19日(火)発表会。富山大学より講師3名(11時間分)を招聘し実施。
	5月	⑤2学年: 28日(火)大学連携講座Ⅱ(テーマ設定)富山大学研究室訪問…富山大学教授等8名の研究室を訪問し、指導と助言をいただく。 ⑨2学年: 人文科学コース 学習支援員(大学生等)による授業サポート 6名により5回実施
	6月	
	7月	
	8月	⑧2学年: 大学連携講座Ⅱ・探究的な活動Ⅱ 時期は3月まで(企業専門家・大学講師等による指導 30日)一部謝礼辞退。…3月に追加予定あり ※2学年: 27日(火)大学連携講座Ⅱ報告会1…富山大学教授等8名が来校し、指導と助言をいただく。事業外
	9月	
	10月	※①1学年: 探究リテラシー講座 講師を招聘し、課題設定・ロジカルシンキングについて指導・教員研修含む。(別事業により助成を受け事業外)
	11月	※2学年: 5日(火)大学連携講座Ⅱ報告会2…富山大学教授等8名が来校し、指導と助言をいただく。事業外
	12月	
	1月	
	2月	②③1学年: 4日 学習支援員による、地域探究連携講座 2回予定を1回にまとめ学習支援員21名(8名謝金辞退)にて実施。 ⑥2学年: 4日(火)大学連携講座Ⅱ(2学年)最終報告会…富山大学教授等7名 来校 指導・助言(1名中止) ⑩2学年: 人文科学コース 学習支援員(大学生等)による授業サポート 7名により3回実施
	3月	④1学年: 18日(火)地域探究発表会(1学年)大学教授等による 指導・助言 (謝金発生せず) ⑦2学年: 18日(火)大学連携講座Ⅱ(2学年)全体発表会…富山大学教授等7名 来校 指導・助言